

報告第2号

無形民俗文化財等調査結果について

1 調査の目的

県内の無形民俗文化財及び無形文化財の中には、伝承者の高齢化や担い手不足、資金不足等から伝承が困難なものも少なくないことから、国・県指定の無形民俗文化財及び無形文化財の現況調査を実施し、これを調査報告書として取りまとめることにより、文化財保護・管理・活用の基礎資料とする。

2 調査期間

平成21年度～平成22年度（2カ年）

3 調査対象

県内の国・県指定無形民俗文化財及び無形文化財

区分	無形民俗文化財	無形文化財
国指定	①奥能登のあえのこと ②尾口のでくまわし ③能登のアマメハギ ④熊甲二十日祭の幟旗行事 ⑤宵柏祭の曳山行事 ⑥気多の鶉祭の習俗 ⑦能登の揚浜式製塩の技術	①輪島塗
県指定	①かんこ踊 ②輪島市名舟御陣乗太鼓 ③能登のまだら ④砂取節 ⑤能登妻屋節 ⑥ぞんべら祭と万歳楽土 ⑦能登島向田の火祭 ⑧御願神事 ⑨重蔵神社如月祭のお当行事 ⑩宇出津のキリコ祭り ⑪能登の諏訪祭りの鎌打ち神事 ⑫二俣いやさか踊り ⑬蛸島早船狂言 ⑭お旅まつりの曳山行事 ⑮美川のおかえり祭り ⑯小木とも旗祭り ⑰鶴川のイドリ祭り	①能登上布 ②九谷焼 ③加賀友禪 ④牛首軸

4 調査組織

(1) 調査委員会

無形民俗文化財の専門家による「調査委員会」を設置して、調査方針や調査内容、調査対象等を決定し、調査全般について助言や指導を受ける。

(2) 調査員

各市町教育委員会から推薦を受けた「調査員」を県教育委員会が委嘱し、現地における現況調査やヒアリングなどによる調査、写真撮影等を行うとともに、各担当の文化財について報告書を執筆。

5 調査内容

(1) 各文化財の現状の記録 (2) 保存会の状況 (3) 存続・維持への課題

6 調査報告書

県内各市町教育委員会、保存会及び関係機関等に送付

調査組織

調査委員会

職名	氏名	役職名
委員長	橋 礼吉	加能民俗の会名誉会長
副委員長	小林 忠雄	北陸大学未来創造学部教授
委員	大門 哲	石川県立歴史博物館学芸専門員

調査員

年次	文化財名	市町名	氏名	役職名
平成21年度調査	奥能登のあえのこと	輪島市	川口 喜仙	奥能登のあえのこと保存会会員
		珠洲市	太佐寿一郎	珠洲市文化財保護審議会委員
		穴水町	東四柳史明	穴水町文化財保護審議会会長
		能登町	瀬戸 久男	能登町文化財保護審議会委員
	尾口のでくまわし	白山市	今村 篤史	加能民俗の会会員
	能登のアマメハギ	輪島市	番場 誠	輪島市教育委員会生涯学習課
		能登町	中山 茂喜	能登町文化財保護審議会委員
	熊甲二十日祭の幟旗行事	七尾市	米岡 完二	七尾市文化財保護審議会委員
	宵柏祭の曳山行事	七尾市	塚林 康治	七尾市文化財保護審議会委員
	気多の鶉祭の習俗	七尾市	塚林 康治	七尾市文化財保護審議会委員
		羽咋市	中越 幸子	羽咋市文化財保護審議会委員
	能登の揚浜式製塩の技術	珠洲市	濱 育代	珠洲市立正院小学校教頭
	輪島塗	輪島市	島口 陽子	輪島塗技術保存会事務局
	かんこ踊	白山市	山下 啓	白山市白峰支所総務課
ぞんべら祭と万歳楽土	輪島市	中田 玄丈	ぞんべら祭曳屋地区参加継承者	
能登島向田の火祭	七尾市	岡本 順文	(宗)伊夜比咩神社代役役員	
能登の諏訪祭りの鎌打ち神事	七尾市	塚林 康治	七尾市文化財保護審議会委員	
	中能登町	桜井 憲弘	中能登町文化財保護審議会委員	
輪島市名舟御陣乗太鼓	輪島市	橋 知之	輪島市文化財保護審議会会長	
能登のまだら	七尾市	塚林 康治	七尾市文化財保護審議会委員	
	輪島市	松原三恵子	能登のまだら保存会会員	
砂取節	珠洲市	薮 三男	石川県文化財保護指導員	
能登妻屋節	輪島市	筒井 勉	能登妻屋節保存会会員	
御願神事	加賀市	竹本 利夫	加賀市文化振興審議会委員	
重蔵神社如月祭のお当行事	輪島市	能門 重矩	輪島市文化財保護審議会委員	
宇出津のキリコ祭り	能登町	山田 芳和	能登町文化財保護審議会会長	
二俣いやさか踊り	金沢市	真山 武志	加能民俗の会幹事	
蛸島早船狂言	珠洲市	太佐寿一郎	珠洲市文化財保護審議会委員	
お旅まつりの曳山行事	小松市	梶本 正準	小松市文化財調査委員会委員	
美川のおかえり祭り	白山市	今村 篤史	加能民俗の会会員	
小木とも旗まつり	能登町	中山 茂喜	能登町文化財保護審議会委員	
鶴川のイドリ祭り	能登町	河合 元一	能登町文化財保護審議会委員	
	羽咋市	若狭 康子	羽咋市教育委員会文化財室	
能登上布	中能登町	正谷 博	中能登町文化財保護審議会委員	
九谷焼	能美市	山近 剛	石川県立九谷焼技術研修所講師	
加賀友禪	金沢市	花岡 博司	加賀友禪の店より 帯代友取庵 社長	
牛首軸	白山市	中村 隆一	牛首軸技術保存会事務局局長	
平成22年度調査	輪島市名舟御陣乗太鼓	輪島市	橋 知之	輪島市文化財保護審議会会長
		七尾市	塚林 康治	七尾市文化財保護審議会委員
	能登のまだら	輪島市	松原三恵子	能登のまだら保存会会員
		珠洲市	薮 三男	石川県文化財保護指導員
	能登妻屋節	輪島市	筒井 勉	能登妻屋節保存会会員
	御願神事	加賀市	竹本 利夫	加賀市文化振興審議会委員
	重蔵神社如月祭のお当行事	輪島市	能門 重矩	輪島市文化財保護審議会委員
	宇出津のキリコ祭り	能登町	山田 芳和	能登町文化財保護審議会会長
	二俣いやさか踊り	金沢市	真山 武志	加能民俗の会幹事
	蛸島早船狂言	珠洲市	太佐寿一郎	珠洲市文化財保護審議会委員
	お旅まつりの曳山行事	小松市	梶本 正準	小松市文化財調査委員会委員
	美川のおかえり祭り	白山市	今村 篤史	加能民俗の会会員
	小木とも旗まつり	能登町	中山 茂喜	能登町文化財保護審議会委員
	鶴川のイドリ祭り	能登町	河合 元一	能登町文化財保護審議会委員
羽咋市		若狭 康子	羽咋市教育委員会文化財室	
能登上布	中能登町	正谷 博	中能登町文化財保護審議会委員	
九谷焼	能美市	山近 剛	石川県立九谷焼技術研修所講師	
加賀友禪	金沢市	花岡 博司	加賀友禪の店より 帯代友取庵 社長	
牛首軸	白山市	中村 隆一	牛首軸技術保存会事務局局長	

無形民俗文化財等調査結果概要

1 無形民俗文化財（祭礼や芸能）

課 題	① 過疎化・少子高齢化と後継者不足 ・無形民俗文化財の伝承地は古い習俗の残る地域であり、これらの地域は過疎と少子高齢化が進行し、担い手確保が課題となっている。 ・キリコなど多数の担ぎ手を必要とする祭礼では、小規模の町会のキリコなどの運行に支障をきたしている例がある。 ・家族単位で実施する祭礼では、後継者が存在しないことが、即、伝承の中断となる。 ・祭礼によっては、担い手が役割上、子どもや青年、少女などに限定されることもあり、なおさら確保が困難になっている。	奥能登地域全般 小佐市の中心市街地 キリコ祭り 熊甲二十日祭 奥能登のあえのこと ぞんべら祭り 早船狂言
	② 用具等の調達の問題 ・祭礼の道具や衣装は、老朽化のため定期的に更新しなければならないが、戸数の減少で一戸あたりの負担経費が増大している。 ・用具等の組立や製作する技術を保持する者が高齢化し、次世代へ技術の伝承が危うくなっている。	おかえり祭り 鎌打ち神事 など お旅まつり 気多の鶴祭り
	③ 観客の確保 ・大規模に行う祭礼では、観客が多いことが、祭礼の盛り上がり大きく影響するため、広くPRし観客を確保する必要がある。	青柏祭 てくまわし など

対 策	① 祭礼実施者の対象拡大 ・地区住民だけの祭礼実施が困難な中、担い手を近隣地区住民、観光客、ボランティアや元々は役割を担ってなかった女性等に拡大。 ・戸数の少ない町会では、二町が合同で一基のキリコを運行したり、他町と結び（相互互助協定）を結ぶなどして担ぎ手を確保している。	とも旗祭り 青柏祭 など キリコ祭り 熊甲二十日祭
	② 祭礼日の変更 ・帰省者や会社員、観光客等の参加を容易にするため、祭礼の期日を土日祝日に変更している。	かんこ踊 向田の火祭 など
	③ 担ぎ手の負担軽減策 ・棒旗を小型化したり担ぎ棒を軽量化するなど、担ぎ手の負担の軽減を図り、少ない人員での祭礼実施に対応している。	熊甲二十日祭
	④ 補助金等による用具等の調達 ・国等の支援施策を活用し、町会での負担が困難な用具等の修理・調達を行っている。	早船狂言（むつらの節間）
	⑤ 映像や音声の記録保存 ・DVDやCDなどを製作し、記録保存と同時に、教材として活用し伝承を図っている。	能登のまだら など

ま と め	① 継承者の範囲拡大の必要性 ・過疎化や高齢化が進行し、集落や町会単位の保存会活動に無理が生じている例もあることから、担い手の範囲を広げることが不可欠である。地域全体で支えていく取り組みが望まれる。
	② 祭礼の本質や歴史的意義の明確化 ・安易な祭礼の変更は、祭礼の形骸化につながり結局は祭礼の本質が失われてしまうため、郷土史家などにより歴史的意義や過去の実態を明確にしておく必要がある。
	③ 積極的な発信 ・保存会の意欲を高めるには、脚光を浴びる必要があり、積極的にインターネットなどで発信すべきである。また、芸能は結婚式や祝賀会など披露の機会を広げることで継承機会が広がる。

2 無形文化財（工芸技術）

課 題	① 技術者の高齢化と後継者不足 ・後継者の確保が望まれているが、産地不況の中で労働条件や将来への不安等が障害となり、若年層の定着が課題となっている。 ・分業型の工芸技術の場合、加飾や上絵などに比較して、木地作りなどの地道な分野の後継者が不足している。	全ての無形文化財（工芸技術） 輪島塗（木地作り） 九谷焼（素地作り）など
	② 材料の入手困難 ・環境や社会情勢の変化によって入手しづらくなった工芸材料がある。	輪島塗（金箔髹、中国産漆） 九谷焼（陶石の減少）
	③ 製品の需要低下と生産の減少 ・全ての工芸品で生産量、販売額共に落ち込んでいる。需要低下に連動した生産減少は、技術水準の保持に大きな影響を与える。	全ての無形文化財（工芸技術）

対 策	① 伝承者養成事業の実施 ・保存会や業界団体では、技術研修会などの伝承者養成事業を行っており、保存会会員が講師として、若年層等に技術指導を行っている。	輪島塗 牛首焼 など
	② 地域での材料調達の試み ・社会環境の変化の中、各産地での材料調達の試みが行われている。	輪島塗（漆の調達の試み） 九谷焼（無鉛顔料の調製）
	③ 新たな製品開発や販路開拓 ・保存会などでは、新たな製品開発や、作家自らが百貨店で個展を開くなどの販路開拓をし、消費者の理解を得る努力を行っている。	九谷焼 輪島塗 など

ま と め	① 伝承者養成 ・後継者不足に対しては、後継者確保、技術伝授、普及啓発など、さまざまな段階で広い意味で伝承者養成が行われることが望まれる。デザインやマーケティングなどの研修も必要。
	② 公募展の開催・出品 ・公募展に作品を出品し作家同士が切磋琢磨することで、工芸技術が一層磨かれる。わざの研鑽の場としての公募展の開催は、技術の保存継承の核となる保存会の重要な事業である。
	③ 工芸技術の記録保存 ・工芸技術を記録し保存することは、保存会の調査・研究活動の基礎をなすものである。新しい映像技術は、工程を分かりやすく記録することが可能であり、養成事業での有効活用が期待される。
	④ 伝統工芸の地域での活用 ・伝統工芸を地域の資産ととらえ、保存会のみならず、行政、住民などが一体となって、観光や教育、地域での地元工芸品の利用など、地域活性化という観点で活用する取り組みが必要である。